

充すと発表された。年中無休で24時間受け付ける電話相談サービスなどを新設し、多様化する顧客ニーズに対応する。パソコンの初期設定から使いこなし方、トラブル解決まで幅広いサービスを提供する事で、利用者の利便性を高める。

新サービス体系「アス」は、専任アドバイザーが電話でインターネットの使い方に関するアドバイスや、ソフトウェア・周

OKI（沖電気工業）は、金融機関が必要とする機能を標準搭載したコールセンターシステムの導入期間を従来に比べ約

ター用システムと金融機関向けに必要な機能を個別に組み合わせて販売してきた。一括提供を可能にしたことで金融機関の

3カ月短縮し、運用コストも同約2割削減できるという。販売を始めたのは「フオンデライター」。OKIのコールセンター用

NTTデータは25日、金融機関向けシステム開発を手掛ける子会社2社を統合すると発表した。

金融向けの基幹システム開発と決済用システム開発を別会社で行ってきたが、合併させ人材やノウハウを統合。基幹系と決済システムを即時に連携

させるようなサービス向けの開発をしやすくする。併せて技術者の稼働率向上と固定費削減も図り、開発期間の短縮や値下げ要求への対応を強化する。

# 我が社の一押し

2009.9.28  
日経産

システム構築のアイネスを代行する。国内の外国人が日本を含むアジア地域で登録者数は増加を続け、08年7月から販売を始めた海外少額送金システム「ARIAS（アリアス）」が業界の注目を集めている。2009年6月に資金決済法が成立し、来年施行されれば少額の取引に限って銀行以外の事業者でも送金業務をできるようになるためだ。

既に20社が導入に興味を示しており、6社とは導入を前提にした交渉に入っているという。

送金サービスの対象となるのは、日本で働く外国人だ。家族などに向けた少額（数万円が一般的）の送金

を代行する。国内の外国人登録者数は増加を続け、08年で221万7000人。このうち合法的に就労するブラジル、フィリピン、ベトナム、インドネシアなどの外国人約60万人を対象に、年間で数千億円規模の需要があると見込む。アイネスは同システムを、コンビニエンスストアやスーパー、ネット銀行、携帯電話事業者などに売り込む。

ただし、最大の需要先とみられる中国への送金にはまだ対応していない。中国では違法な「地下銀行」が発達しているため正規事業者の参入が難しく、今後の

課題となりそうだ。アリアスを開発したの

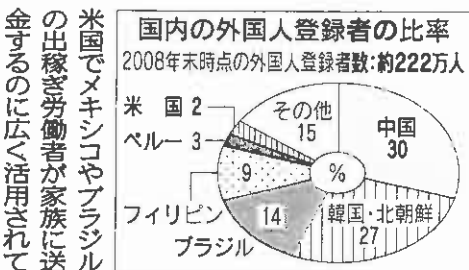
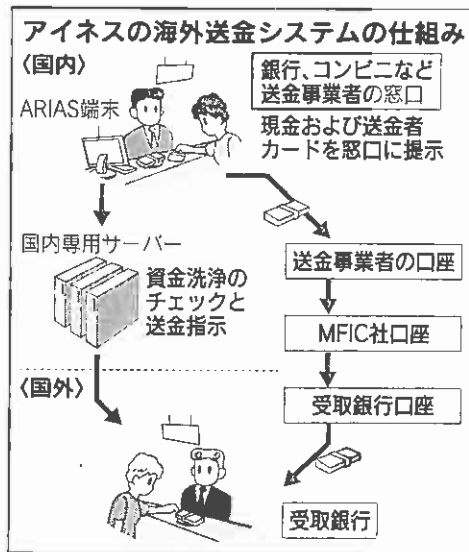
は、元銀行員の枋迫（とちさき）篤昌氏が米国で起業したマイクロファイナンス・インテナーショナル・コーポレーション（MFI）だ。東京三菱銀行（現三

社が開発したシステムは、

## コールセンターシステム

### 金融向け機能搭載

OKI



米国のメキシコやブラジルの出稼ぎ労働者が家族に送金するのに広く活用されてきた。だが高額送金を前提とするため送金1回当たりの手数料が高かった。

アイネスを使った送金サービスの特徴は2つある。1つは手数料の安さだ。1回の送金手数料は1500円〜2000円で、一般的な銀行間送金と比べて、手数料を数分の1に抑えられる。例えば、1回当たり3万円を本国の家族に送金する場合、銀行間送金では手数料が7000円もかかり、実際の送金額は2万3000円に減る。アリアスでは2万8500円を送金できる。

## アイネス 海外少額送金システム

### 手数料安く手続き簡単

アイネスを使った送金サービスの特徴は2つある。1つは手数料の安さだ。1回の送金手数料は1500円〜2000円で、一般的な銀行間送金と比べて、手数料を数分の1に抑えられる。例えば、1回当たり3万円を本国の家族に送金する場合、銀行間送金では手数料が7000円もかかり、実際の送金額は2万3000円に減る。アリアスでは2万8500円を送金できる。